

日本語日常会話コーパスにみられる指示表現 「そうゆう」と「こうゆう」の機能 —身振りに注目して—

Functions of Demonstrative Expressions “Sōyū” and “Kōyū” in the Corpus of Everyday Japanese Conversation

星野 祐子¹⁾

HOSHINO Yuko

要 旨

本研究では、『日本語日常会話コーパス』モニター公開版をデータに、指示表現を含む連語「そうゆう」「こうゆう」の機能に注目する。

研究観点は2点である。1点目は50時間もの会話データが含まれているコーパスを利用し、指示表現「そうゆう」「こうゆう」の使用傾向を明らかにする点である。2点目は具体的な発話例を引きながら、非言語表現である身振りとの関連を示す点である。

まず、両形式の使用頻度を算出した。各形式に語彙素「言う」を後続させた結果、それぞれの頻度は1,243、276となった。続いて「そうゆう」と「こうゆう」に係る要素を調べたところ、「そうゆう」には「の」「こと」「ふう」の順で各形式が後続し、「こうゆう」には「の」「ふう」「感じ」の順で各形式が後続していることがわかった。両形式ともに体言の代用「の」が頻用されることは同じだが、「こうゆう」の方が、会話場面に仮設した空間を使い、身振りを用いながら、指示対象をより具体的に描写している傾向をうかがうことができた。

続いて、「そうゆう」と「こうゆう」の発話時に伴う特徴的な身振りに注目する。

「そうゆう」に関して、「対象が先行発話にある場合」の例を挙げると、先行発話で挙げた具体例をまとめあげたり、強調したりといった機能が認められた。この場合は、前方を指さしたり、手を一往復させたりといった身振りが伴う。また、指示対象がモノなのか概念なのかといったことも、身振りに影響を与えていた。全体的な傾向として、描く対象が有形で輪郭が明確なものほど身振りは明確であり、無形である場合はその存在を指し示すような動きとなる。「こうゆう」に関しては、「そうゆう」よりも現場性が高いため、描写する身振りが明確であるものが多かった。また、会話場面に疑似会話を持ち込む際に「こうゆう」が用いられ、会話を鮮やかに描写している例も確認された。

¹⁾ 十文字学園女子大学教育人文学部 文芸文化学科

Department of Literature and Culture, Faculty of Education and Humanities, Jumonji University

キーワード：日本語日常会話コーパス、指示表現、身振り、そうゆう、こうゆう

1. はじめに

本研究では、『日本語日常会話コーパス』(Corpus of Everyday Japanese Conversation, 以下CEJC) モニター公開版をデータに、指示表現を含む連語「そうゆう」「こうゆう」の実際の使われ方を観察する。話題を展開する中で「何を指しているのか」、また、発話時にどのような身振りが伴っているかを示したい。

2. 先行研究

指示表現の基本的な用法としては、まず、現場指示用法と文脈指示用法が挙げられる。文脈指示用法に関する指摘は、早くは佐久間(1951)、三上(1955)にみられる。談話管理理論に基づき指示表現を説明する研究には、金水・田窪(1992)、田窪・金水(1996)等がある。また、定延・田窪(1995)、田窪・金水(1997)等は、指示表現がフィラーとして用いられることについて理論的な枠組みを示している。具体的な研究では、例えば、小出(2010)は、「こう」に伴う表現として「みたいな」「ような」「という感じ」を指摘し、比喩的な表現が続く際に、ジェスチャーが伴いやすいことを述べている。

続いて、身振りに関する研究を概観する。特に指示表現との関連について確認したい。

身振りに関する先駆的な指摘には、南(1979)がある。南(1979: 12)は「言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションは実際には共存して一つの全体的なコミュニケーションをかたちづくっているのがふつうのありかたである」と述べ、会話研究において身振りが備える機能を明らかにする必要性を指摘する。

身振りに関する一連の研究には、ザトラウスキー(2002、2006、2010)がある。ザトラウスキー(2002)は、アニメーションのストーリーを語る際の会話をデータにし、話段の展開と共に起る非言語表現に関連があることを示している。例えば、話段の開始部にみられる非言語表現には、視線配布、手・指による指示的な動作、図像的な動作等の非言語要素が用いられる傾向があるとする。

ザトラウスキー(2006)は、20代女性の談話を対象に会話に伴う身振りに注目し、「指示的身ぶり」および「拍子的身ぶり」の特徴を指摘する。「指示的身ぶり」は、例えば、当該の相手や相手と関連する人物やモノを指したり、話し手自身または話し手と聞き手の知識の共有に関わったりする。「拍子的身ぶり」は、一連の語りにおいてリズムを刻むかのように、軽く手を動かすもので、実質的な意味はないとする。これら、両者の境界は曖昧かつ連続的で、場合によっては、一つの身振りが両方の機能を備えているとする。

ザトラウスキー(2010)は、講義の談話をデータにした論考である。これまでの研究成果をふまえ、身振りを①図像的、②隠喩的、③指示的、④拍子的、⑤絵的、⑥位置づけの身ぶり、⑦隠喩的言及の図像的身ぶりの7つに分けて考察する。

城・平本(2015)は、身振りが生起するタイミングがどのように準備され、会話参加者間でどのように共有されるかを明らかにした研究である。指示表現との関わりについては、シュノーケルの装着を「これ」「こう」といったコ系の指示語を用いながら、身振りで空間に描写している会話を挙げる。

城(2017)は、身振りが生起する直前のやりとりに注目し、まずは、身振りが生じる空間の仮設が、会話参加者間で了承される必要性があることを述べる。そして、その仮設された空間に、話題の物事や事柄が身振りで描写されるとする。例として、テーブル上の平面に「四国地方」を設定し、4県の位置

を指示表現と身振りを使い確認しているやりとりを挙げる。

本研究では、指示表現の中でも「こうゆう」と「そうゆう」に限って分析する。形式を限定して身ぶりの共起を分析できるのは、用例数の多い大規模コーパスを用いるからこそを試みであるといえる。

3. 資料

CEJCの説明に加えて、指示表現「そうゆう」と「こうゆう」に注目する経緯を述べる。

3.1 CEJC

CEJCは国立国語研究所共同研究プロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的な研究」による研究成果であり、多様な場面における様々な話者による日常会話を映像とあわせて収録するコーパスである。50時間分の会話データがモニター公開されており、本研究ではそのモニター版を使用している。モニター版に収録されている会話数は126会話で、各会話データの会話時間は5分から1時間弱で長短がある。

CEJCについては臼田他（2018）、小磯他（2019a、2019b）を参照されたい。

3.2 「そうゆう」と「こうゆう」

2形式を取り上げるに至った経緯を高崎・星野・田嶋（2019）の研究結果を参照しながら述べる。高崎・星野・田嶋（2019）は、CEJCにおける指示語の頻度を調査している。調査にあたっては全文検索システム「ひまわり」を用い、語彙素を基準に指示表現の検索を行った。検索の結果、頻度1位が副詞の「そう」（13,749）、頻度2位が代名詞の「それ」（3,724）、頻度3位が代名詞の「これ」（3,082）、頻度4位が副詞の「こう」（1,781）という結果が得られた。この結果を受け、高頻度であった「そう」の内訳を確認してみると、いわゆる「副詞」ではなく、相槌・応答として処理できるものが多く含まれていた。そこで、前後の語彙素の共起関係により機械的に相槌・応答の用法を除くと、以下のような内訳となった。

表1 CEJCで「副詞」として分類されている「そう」の内訳

用法	頻度	判断理由
副詞	2,062	後続の語彙素が用言
相槌・応答	11,606	くり返しの「そう」、文末の「そう」、後続の語彙素が助詞・助動詞
その他	81	機械判断できず
総計	13,749	

高崎・星野・田嶋（2019）より

表1の数値は、後続要素の形式を手掛かりにした機械的判断であるので、揺れが生じることが想定されるが、CEJCで分類・登録されている副詞「そう」の実態は、ほとんどが相槌・応答であるということが明らかになった。逆に言えば、本来の用法としての「副詞」の「そう」に相当するものは、全体の15パーセントほどである。また、2,062の副詞の使用例を確認したところ、「そうゆう」という形式での出現が1,243例であり、連語での使用が半数を超えることがわかった。

そこで、本研究では副詞「そう」の半数を占める「そうゆう」と、「そうゆう」と類似の形式である「こうゆう」の2形式に着目し、その使用実態を明らかにすることにした。

4. 研究課題

大規模な日常会話コーパスをデータにする利点を活かし、まずは、日常会話において「そうゆう」と「こうゆう」がどの程度会話に表れ、どのような使用傾向にあるのかを数量的に明らかにする。次に、「そうゆう」と「こうゆう」が一連の会話の中でどのように使われ、機能がどのように拡がっているのか、具体的な発話と非言語表現を手掛かりに分析する。

5. 「そうゆう」と「こうゆう」の全体傾向

「そうゆう」と「こうゆう」の構成要素である「そう」と「こう」について基本情報を確認する。表2は、CEJCに登録されている「そう」と「こう」の基本情報である。

表2 「そう」と「こう」の基本情報

	語彙素	品詞	頻度	
ソ系	そう	副詞	13,749	相槌・応答を含む
コ系	こう	副詞	1,781	フィラーを含む

「そう」が相槌・応答を含むことは既に述べたが、「こう」にもいわゆる副詞とは分類しがたい「フィラー」の特徴を備える「こう」が確認された。例えば、ある会話において、「なんか こう なんだろう」という発話がみられたが、ここでの「こう」は「なんだろう」を伴って、自身の内部を検索しているかのような印象を与えている。

続いて、「そうゆう」と「こうゆう」の基本情報を掲載する。ここでは、「そう」または「こう」に後続する語彙素を「言う」として設定しているため、「こうゆう」であれば「こうゆう」「こういった」「こういう」などのバリエーションが含まれる。

表3 「そうゆう」と「こうゆう」の基本情報

	語彙素	後続の語彙素	頻度
そうゆう	そう	言う	1,243
こうゆう	こう	言う	276

表3より、本研究の対象となる「そうゆう」ならびに「こうゆう」の頻度は、それぞれ1,243、276となる。次に「そうゆう」ならびに「こうゆう」に後続する形式を確認してみよう。後続する形式は各形式の直後に置かれたものである。「そうゆう」については後続要素を上位10形式、「こうゆう」については頻度2以上のものをすべて示す。

表4 「そうゆう」に後続する形式と「こうゆう」に後続する形式

	そうゆう			こうゆう		
	後続する形式	頻度	割合	後続する形式	頻度	割合
1	の	278	22.36	の	52	18.84
2	こと	181	14.56	ふう	32	11.59
3	ふう	61	4.90	感じ	25	9.05
4	人	47	3.78	こと	22	7.97
5	とこ・ところ	44	3.53	時	22	7.97
6	感じ	38	3.05	とこ・ところ	11	3.98
7	意味	28	2.25	やつ	7	2.53
8	もの・もん	25	2.01	人	3	1.32
9	時	21	1.68	色・形・紙・茎・セッ ト・対応・内臓・人間・ 場合・わけ	各2	0.7
10	話	14	1.12			

表4より、「そうゆう」と「こうゆう」の直後に位置する形式は、いずれも体言の代用である「の」であることがわかる。それぞれの使用数に占める割合は2割程度である。「そうゆう」については、頻度2位に「こと」が続き、こちらも体言の代用を表す。

「こうゆう」については、頻度2位に「ふう」、頻度3位に「感じ」が位置する。「ふう」や「感じ」は「そうゆう」にも後続するが、「そうゆう」と比べると「こうゆう」の方が使用頻度が高い。つまり、話し手は、「ふう」や「感じ」で表すべき感覚的なものを伝えるため、会話場面に仮設した空間に、コ系で指示すべき対象を描写したり、あるいは手元にある何かを用いて実際にアクションを起こしたりしていることが推察される。

それでは、実際の会話において身振りはどのように生起しているのだろうか。

6. 「そうゆう」と「こうゆう」の実際の使用

ここからは実際の使用例を身振りと共にみていく。会話の転記にあたって、1列目は当該発話の開始時間、2列目は話者、3列目は発話内容を指す。図は「そうゆう」ならびに「こうゆう」の発話が発せられた際の非言語情報である。

6.1 「そうゆう」

会話における「そうゆう」の出現を、指示すべき対象が現場に存在する場合と、先行発話に存在する場合に分けて考察する。

6.1.1 対象が現場に存在する場合

CEJCには、単に会話をするのではなく、食べたり何かを作ったりといった作業場面の会話も収録されている。例1は、共同で3段ボックスを作成している場面である。

例 1 3 段ボックスを組み立て終わった場面



図 1

3187.8	IC02_ 広瀬	(U なんか) 粉っぽい出てくる。
3189.393	IC02_ 広瀬	これ。
3189.622	IC01_ 優香	うーん。
3191.163	IC01_ 優香	(T まあしょうがないよ)。
3194.13	IC01_ 優香	そう。
3194.38	IC01_ 優香	なんか <u>そうゆう</u> ところは所々は気になるけど。

例 1 では、2 者の空間にある 3 段ボックスが話題となっている。まず、広瀬が「粉っぽい出てくる。これ。」とコ系の指示表現を用い、3 段ボックスに不良な点があることを述べる。この発話を受けて、優香は 3 段ボックスに視線を送り、「そうゆうところは所々は気になるけど。」と返答する。例 1 のやりとりは、相手側にあるものを「そうゆう」で指示するという指示表現の基本的なパターンを備えている。

6. 1. 2 対象が先行発話にある場合

「そうゆう」の指示対象が先行する自分の発話に存在する場合と、会話参加者の発話に存在する場合に分けて考察する。

(1) 指示対象が自分の先行発話に存在する場合

例 2 はインド文化圏に残る階級意識について、康明が語っている場面である。「とか」を用いて階級の具体例を挙げる際 (811.8~816.73) は、つき出した右手人差し指を上下に往復させ、拍子的な動きがみられる。対して「そうゆう」には、指を細かく振動させる動きが伴っていた。具体例として挙げた「教授」「僧侶」「政治家」は指の上下運動であったのに対し、「そうゆう」は眼前にある何かを指しているかのような動きであるのが特徴的である。

例 2 インド文化圏における階級について語る場面



図 2

811.8	IC02_康明	最高の階級ってのは 大学の教授とか
814.711	IC04_翔子	うん。
815.216	IC02_康明	僧侶とかね
816.73	IC02_康明	政治:家とか
818.58	IC02_康明	そうゆうところ になれる。
821.022	IC02_康明	うーん。
821.28	IC04_翔子	へー。

他の会話例においても、具体例をいくつか挙げた後、「そうゆう」で先行例をまとめているかのような発話がみられた。あたかも、空間でカウントした具体例を指差しでまとめ直すような動きである。このようなパターンにおいて身振りは必須ではないが、身振りを伴うと聞き手への印象が強化されることになる。例3をみてみよう。

例3 会社の応接室で取引先と打ち合わせをしている場面



図3



図4

①「そうゆう子が半分」

②「半官半民の。そうゆうとこがね」

660.784	IC01_小川	ほんと (F あ の:) 美大出て
662.823	IC01_小川	(F あ の:) イラストを描いてるとか そうゆう子 が半分。①
666.032	IC01_小川	(D ン) でそれはちょっとね
667.222	IC01_小川	採れない。
667.777	IC01_小川	であとは (F あ の) ばりばりに
669.327	IC01_小川	現役の人たちが半分。
669.978	IC02_金子	あー。
670.33	IC02_金子	D P Aをやって
671.11	IC01_小川	そう そう そう。
671.721	IC02_金子	P (F あ の:) (X # # # # #)。
673.029	IC01_小川	D T P と。@「DeskTop Publishing」の略か?
673.513	IC02_金子	D T Pをやっててね。
673.888	IC01_小川	そう そう そう そう そう。
674.978	IC02_金子	それでね: これ余分な話しとんどん言いますから
677.86	IC02_金子	ある (F あ の:) 第三 (W カ 者) 機関があるわけ。
680.691	IC02_金子	民間じゃなくて (F あ の) 官公 半官半民の。
684.39	IC02_金子	そうゆうとこ がね ②
685.7	IC02_金子	そうゆうDTPの子 を雇うの。③

例3においては「そうゆう」が3回登場する。ここでは①、②の「そうゆう」に伴う身振りを確認する。③については例8で改めて取り上げる。

最初に注目する①「そうゆう子が半分」には身振りは伴っていない。「イラストを描いている」と発話した際は、右手で何かを「描いている」動きをみせていたが、「そうゆう」と発した際には特段な動きは確認できず、図3のように手を組む体勢が維持された。その後、金子の発話を傾聴している際もこ

の姿勢はしばらく維持され、手を組む行為に意図はないと考えられる。続く金子の発話②「半官半民の。そうゆうところがね」では、手のひらを小川に見せるような形で手を顔の前に持ち上げる動きがみられた。先行発話の「半官半民」を印象付ける効果がある。

先行内容を印象付けるという点では、例3②の「そうゆう」と例2の「そうゆう」の役割は近い。ただし、例2は複数の内容をまとめあげる「そうゆう」であったのに対し、②は一つ概念を指しているという点に違いがある。また、例2は右手の人差し指を小刻みに動かしているが②の発話時は先方に手を差し出すのみであった(図4)。この事例から、指すべき対象が単数が複数なのかという点も、指の動きに関わっている可能性があるかと推察することができる。

続いて取り上げる「そうゆう」は、指示対象を眼前の空間に描写する「そうゆう」である。ここでは、描写した対象が有形のものであるとか、無形概念であるとか、そうした相違は問わない。例4をみてみよう。

例4 健が「アメリカン」というあだ名で呼ばれることについて語る場面



図5

559.668	IC04_翔子	アメリカンで (W (D ヨ) 呼ぶ) 呼ばれてたの?。
559.742	IC01_健	俺:。
560.949	IC03_千紘	アメリカンとか
561.542	IC01_健	こないだ。
561.805	IC04_翔子	(L)
562.263	IC03_千紘	わたし直接は
563.923	IC04_翔子	うん うん。
564.104	IC03_千紘	(D シャベ) あんまりこっちはしゃべれなかったんだけど。
566.12	IC04_翔子	え。
566.216	IC04_翔子	もう 何。
566.558	IC04_翔子	あー あのアメリカンでしょ みたいな感じ?。
567.207	IC03_千紘	でも そう。
568.257	IC03_千紘	あつ。
568.507	IC03_千紘	アメリカン アメリカンみたいな。
568.957	IC01_健	(L)
569.062	IC04_翔子	(L)
569.901	IC03_千紘	そう。
570.213	IC03_千紘	アメリカンとか。
571.368	IC03_千紘	ほら。
571.599	IC03_千紘	留学しててなんかこうそうゆうイメージで:
571.875	IC04_翔子	へー。

例4では、会話参加者で共有しているだろう「アメリカン」のイメージが、あたかも空間にあるかのよう、軽く両手を動かす身振りが確認された。もちろん「アメリカンのイメージ」は有形ではないが、例4の身振りは、会話参加者がイメージする諸々のアメリカン気質がなんとなく眼前にあり、それを指

し示すような機能を備えている。ここで、「そうゆう」に先行する「なんかこう」とあわせて考えると、具体的には言えないが、会話参加者でイメージできるだろう「アメリカン」をソ系の指示表現を用いて共有していると捉えることができる。

続く例5は、ある特定の場所をソ系の指示表現で再現しているものである。例2から例4で取り上げた「そうゆう」と異なり、形の描写が比較的容易いタイプである。

例5 缶ビールの空き缶が投棄されていることについて説明する場面



図6

325.814	IC01_塚田	(F あの) 缶ビールとかそうゆうものがみんな
328.359	IC01_塚田	(W コッ 落っこつ) てん (U だよ)。
329.3	IC01_塚田	あすこと駅前がすごく多いんだよ。
332.459	IC01_塚田	駅前がこう
333.558	IC01_塚田	コンクリートの (U なんか) 塀があるじゃない?。
335.015	IC02_芳恵	うん。
335.107	IC01_塚田	そう (W ユ ゆう) ところ にこう水抜きがあるじゃん。
336.564	IC01_塚田	出るところが。
337.103	IC02_芳恵	うん うん。
337.455	IC01_塚田	そこにもういっぱい缶% 缶ビールの缶が二本も三本も必ず入ってあー まだ入ってるって。

例5では、「水抜きがあるコンクリートの壁」を空間に描き、話題に挙がっている有形のものを描写している。具体的には、壁にある水抜きのサイズと形を手で再現していると思われる。

例6は、旅行先で地ビールをたしなむことを話している場面であり、「そうゆう」に伴う身振りは、地ビールを販売している場所や地域を指している。

例6 地ビールの良さについて語る場面



図7



図8

①「そうゆうなんかそうゆうとこ」

②「奈良もなんかそうゆう」

1346.477	IC02_師匠	で 旅行に行くとやっぱいろんなとこが地ビールをやってて
1348.74	IC04_広瀬	うん うん うん。

1348.975	IC03_奥村	うん。
1349.465	IC04_広瀬	地域のね。
1349.711	IC02_師匠	そうゆうなんかそうゆうとこがやってて。①
中略		
1363.548	IC02_師匠	静岡はある。
1364.135	IC04_広瀬	うん うん。
1364.329	IC02_師匠	(F あの) 御殿場高原ビールとかもある。
1364.353	IC03_奥村	ほー。
1366.449	IC02_師匠	で この前
1367.332	IC02_師匠	ちょっと
1367.965	IC02_師匠	奈良に行く機会があって。
1368.972	IC04_広瀬	うーん。
1369.356	IC03_奥村	ほう。
1369.801	IC02_師匠	だ 奈良もなんか そうゆう ②
1371.915	IC02_師匠	なんか自社農園みたいところから始めた
1374.47	IC03_奥村	ふん ふん。
1375.01	IC04_広瀬	あー。
1375.183	IC02_師匠	ところの地ビールがあって。

例6の場合、地ビールを販売している地域も農園も、ある程度広さを有したものであるからか、その広さを表現すべく、横に手を広げる身振りが2度「そうゆう」に伴っている。また、「そうゆう」の前後に注目してみると、フィラーの「なんか」が共起している。ここから、例5のように具体的な形の描写は難しくても、話し手の中ではその土地の広さが図像的にイメージされ、そのイメージをベースに話題を展開する意図があることが推察される。

(2) 指示対象が相手の先行発話に存在する場合

指示対象が相手の先行発話にみられると考えられる例として例7をみてみたい。

例7 弓絵のイメージしている服が本人に似合うと佐竹が指摘している場面



図9

2194.717	IC06_弓絵	あと なんかちょっとベージュが入ったようなピンクでもいいかな:とか思ってる。
2197.126	IC01_佐竹	(K ウ:ス 薄) いのね。
2198.002	IC06_弓絵	うん うん。
2198.068	IC01_佐竹	(F あの)
2198.458	IC05_咲乃	うーん。
2198.7	IC06_弓絵	だけど:。
2199.854	IC01_佐竹	そう (U ゆう) 服 似合うと思うよ。

例7の「そうゆう」は、弓絵の発話にある「ちょっとベージュが入ったようなピンク」の服を指す。差し出された左手は弓絵本人を指しているとも考えられるが、いずれにしても弓絵側のものを強調して指し示すために生起した身振りであるといえる。

(3) 指示対象の指定が難しい場合

最後に例8の「そうゆうDTPの子を雇うの」の「そうゆう」に注目する。一連の会話の流れは例3を参照されたい。例8の「そうゆう」には、図10のように前方の空間を指す身振りが伴っていた。ただし、「そうゆう」で指示された内容を、当該発話が発せられた時点で特定することは難しい。引用部分以外の会話展開から推察すると「美大出てイラストを描いてる」人のようなのだが、瞬時の判断は厳しいといえる。それでも「そうゆう」が、身振りを伴って強調されているということは、話し手の中で強く指したい何かがあり、それが談話展開上、欠かせないトピックであるからだといえる。その場合の「そうゆう」は、具体的な何かを指すというよりは、聞き手への注意喚起としての意味合いが強くなる。

例8 半官半民の機関のデザイナー採用について語る場面



図10

677.86	IC02_金子	ある(Fあの:)第三(Wカ 者)機関があるわけ。
680.691	IC02_金子	民間じゃなくて(Fあの)官公半官半民の。
684.39	IC02_金子	そうゆうとこがね
685.7	IC02_金子	そうゆうDTPの子を雇うの。

ここで「そうゆう」の使用についてまとめる。

まず、会話場面に実際にあるものを指す際、相手側にあるものを「そうゆう」で指示する。この用法はソ系の指示表現の基本となる用法である。

次に、先行発話にあらわれた話題を「そうゆう」で指し示すパターンを確認した。分析にあたっては、指示対象が自身の発話にみられる場合と聞き手の発話にみられる場合に分けた。ここでは、身振りを伴う「そうゆう」を中心にみてきたが、あるモノを明示的に描写する場合があったり、ある概念の存在を空間に描く身振りをする場合があったりと、「そうゆう」に伴う身振りの正確性・再現性には段階があった。「そうゆう」が指すべき対象の輪郭をどの程度会話参加者で共有できるかによって、身振りの正確性、アクションの大きさは変わってくるといえる。また、仮に「そうゆう」が指すべきものを、会話参加者の間で共有できなくても、注意喚起の意味で「そうゆう」が用いられていると考えられるケースもあった。

6.2 「こうゆう」

「こうゆう」についても、身振りを確認しながらそのバリエーションをみていく。「こうゆう」はコ系

の指示表現であるため基本的には、発話者自身に関連する内容を指す。

6.2.1 対象が現場に存在する場合

対象が現場に存在する場合は、話し手の近くにあるものを実際に指し示すことになる。例9はテニスクラブの椅子やテーブルを変えたいと話している場面である。1度目の「こうゆう」で椅子を、2度目の「こうゆう」でテーブルを叩くことで、他の会話参加者の視線を誘導することができている。

例9 テニスクラブの備品を買い替えたいと話す場面



図11



図12

1435.447	IC01_ 健	なんかね: 変えたいところは: いっぱいあってさ:
1436.291	IC02_ 浜野	とか。
1437.405	IC03_ 堀江	いっぱいあるよね:。
1437.737	IC02_ 浜野	うん うん うん。
1438.955	IC01_ 健	(L (F あーの:))
1440.357	IC01_ 健	(W コ こう) (W ュ ゆう) のとか: (W コ こう) (W ュ ゆう) のとかも:
1442.091	IC02_ 浜野	そうだよね。
1443.274	IC01_ 健	それこそね: すごく: 安く: たぶんイケアとかで:

6.2.2 対象が現場に存在しない場合

対象が現場に存在しない場合として、会話参加者間で共有された空間に、話題のモノを描写している例を確認する。

例10 就職活動における合否の連絡方法について語る場面



図13

892.008	IC03_ 青木	受かった人は: 中略
896.291	IC02_ 富永	色々 次の (D ウ) お知らせが: 入って (L る)。
897.01	IC03_ 青木	そう そう そう そう。
897.165	IC01_ 尾形	そう。

897.386	IC01_尾形	次の試験の:。
898.453	IC01_尾形	うん。
898.521	IC02_富永	(L)
898.572	IC03_青木	で 落ちた人には こうゆう ぴらっと (L 開く:) あの%葉書:みたいな一枚だけだから:

「こうゆうぴらっと開く:」と言いながら、「ぴらっと」の身振りを聞き手に見せる。ここでは、コ系の指示表現を用いることで「ぴらっと」に注目を促すことができている。「こうゆう」で場を設定し、聞き手の視線を誘導するからこそ、「ぴらっと」の描写が効果的となる。

以上、例9と例10の「こうゆう」は、指すべき内容が場面から理解できるものであった。次は、「こうゆう」の指しているものは不明だが、会話として違和感のないものをみていく。

例11 夫婦でお金の話をすることを語る場面



図14

1816.349	IC03_千秋	結構真面目な話 家でして (L て)
1818.074	IC03_千秋	(L)
1820.154	IC05_新田	へー。
1820.52	IC02_洋平	なんか
1820.526	IC03_千秋	こうゆう時 こうだよね:とか こうゆう風 にこうお金が使えたらいいね:とか。

「こうゆう時こうだよね」「こうゆう風にお金が使えたらいいね」など、疑似的な会話を発話場面を持ち込むことで、家庭での会話を臨場感をもって伝えることができている。身振りは特に伴っていない。ここには、コ系が指すべき対象はないが、聞き手は家庭内で実際に交わされているだろう会話のモデルとして違和感なく傾聴することができる。

例12 サカキを説明しようとしている場面



図15

58.734	IC02_秀夫	(F あの:) ところへね
59.692	IC03_節子	うん。

60.022	IC02_秀夫	こう
60.452	IC02_秀夫	要するに (W (D コ) こう)
61.111	IC02_秀夫	こうゆう なんちゅうの
62.504	IC02_秀夫	(F あの)
66.75	IC02_秀夫	要するに伸びた先へ こう:
68.583	IC03_節子	うん。
69.09	IC02_秀夫	子供が:
70.082	IC02_秀夫	あれ
70.571	IC02_秀夫	(F あーの)
71.834	IC02_秀夫	葉っぱを描くよう (L に)

例12は、サカキについて身振りを交えながら説明している場面である。画像は「こうゆう」と発話した時点の身振りである。ここで、「こうゆう」周辺の表現をみてみると「こう こうゆう なんちゅうの 要するに」とフィラーに近い表現を確認することができる。つまり、「こうゆう」で聞き手の注目を促したものの、話し手はサカキの形状を描写できるだけの説明力を「こうゆう」の発話時点で持ち合わせていなかったと推察できる。もちろん、話し手の中ではイメージできるからこそ、コ系の指示表現が使われ、サカキを空間に描くような身振りが共起したわけだが、結局、新たに姿勢を変え、後続の話題を展開させることとなった。つまり、本例における「こうゆう」は、コ系を用いて自身の内部を検索していることを聞き手に伝える場つなぎの表現として捉えることができる。

7. まとめと今後の課題

本研究では「そうゆう」と「こうゆう」の指示対象とそれに伴う身振りとの関係に注目した。指示表現に伴う身振りは多様であり、「そうゆう」と「こうゆう」で指示されたものを会話参加者で共有することで、話題が進展していくことがわかった。また、結果として指示内容が共有されなくても、注意喚起の意味で「そうゆう」や「こうゆう」が用いられている場合があった。指示内容が不明確でも会話参加者が会話を続けることができるのは、「そうゆう」と「こうゆう」の幅広い指示のあり方を会話参加者が無意識に受容しているからなのだろう。

「そうゆう」については、文脈指示用法を基本としながら、会話空間に「そうゆう」が指すべきものを指や手で描写することで、聞き手への関心を促している傾向がみられた。「そうゆう」に後続する形式が「イメージ」のような抽象度の高いものの描写であっても、聞き手の「伝えたい」という願いが、無意識の非言語行動を促していたといえる。「こうゆう」については、話し手側にあるモノやコト、そして、話し手が抱えている感覚を具体的な身振りで描く例が確認された。加えて、「そうゆう」と同様、聞き手の視線を誘導する機能を備えていた。また、自身の発話ターンを維持するために、フィラーとして用いられている例もあった。

最後に今後の課題を述べる。今回は、身振りが特徴的な事例を挙げることに留まり、身振りが伴わない事例については十分論じることができなかった。また、「そうゆう」や「こうゆう」に伴う身振りの生起が談話展開と照らし合わせて任意か必須かということも明らかになっていない。今後は、会話データをより丁寧に確認することで、談話展開と照らし合わせて身振りの有無が与える会話展開の様相を探ることを試みたい。

【謝辞】

本研究は、国立国語研究所のプロジェクト「大規模日常会話コーパスに基づく話し言葉の多角的研究」（プロジェクトリーダー・小磯花絵）による研究成果である。ここに感謝申し上げる。

【先行研究】

- 白田泰如・川端良子・西川賢也・石本祐一・小磯花絵（2018）『『日本語日常会話コーパス』における転記の基準と作成手法』『国立国語研究所論集』15 国立国語研究所 pp.177-193
- 金水敏・田窪行則編（1992）『指示詞』ひつじ書房
- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉（2019a）『『日本語日常会話コーパス』モニター公開版の設計と特徴』『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』pp.367-370
- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉（2019b）『『日本語日常会話コーパス』モニター公開版 コーパスの設計と特徴』（国立国語研究所日常会話コーパスプロジェクト報告書3）国立国語研究所
- 小出慶一（2010）「日本語学習者の発話に見られるフィラー「こう」について」『埼玉大学紀要 教養学部』46（2）埼玉大学教養学部 pp.99-112
- 佐久間鼎（1951）『現代日本語の表現と語法』恒星社厚生閣（補正版としてくろしお出版より復刊1983）
- 定延利之・田窪行則（1995）「談話における心的操作モニター機能心的操作標識「ええと」と「あの（-）」」『言語研究』108 日本言語学会 pp.74-93
- ザトラウスキー・ポリー（2002）「日米におけるアニメーションのストーリーの語り方と非言語行動の相違」水谷修・李徳奉編『総合的日本語教育を求めて』国書刊行会 pp.187-201
- ザトラウスキー・ポリー（2006）「20代の女性の談話における指示的な身ぶりと拍子的な身ぶりの手の形と機能」『表現研究』84 表現学会 pp.67-77
- ザトラウスキー・ポリー（2010）「講義の談話の非言語表現」佐久間まゆみ編『講義の談話の表現と理解』くろしお出版 pp.187-204
- 城綾実・平本毅（2015）「認識可能な身振りの準備と身振りの同期」『社会言語科学』17（2）社会言語学会 pp.40-55
- 城綾実（2017）「秩序だった手の動きが誘う相互行為—意味の共同理解を試みる活動を例に」『日本語学』36（4）明治書院 pp.177-189
- 高崎みどり・星野祐子・田嶋明日香（2019）「日本語日常会話コーパスを利用した指示語と身振りの研究」発表資料 シンポジウム「話し言葉の多様性」2019年8月30日 於国立国語研究所
- 田窪行則・金水敏（1996）「複数の心的領域による談話管理」『認知科学』3（3）日本認知科学会 pp.59-73
- 田窪行則・金水敏（1997）「応答詞・感動詞の談話的機能」音声文法研究会編『文法と音声』くろしお出版 pp.257-279
- 三上章（1955）『現代語法新説』刀江書院（くろしお出版より復刊1972）
- 南不二男（1979）「言語行動研究の問題点」『講座 言語 第3巻 言語と行動』大修館書店 pp.5-30